標本棚 私と芸能

私と能

上村嘉枝子

能に興味を持ったきっかけは、薪能でした。夏の夜、篝火に照らされた簡素な舞台、やがて笛、鼓、太鼓の音が響き、古式のままの装束に面（おもて）をつけ、音もなく現われる姿。三保の松原での「羽衣」、神社の花吹雪の中での「桜川」、厳島神社の観月能。ひたひたと満潮に能舞台が海に浮かび、遠い昔の平家を憶う「厚盛」などは、時代を越えた幽玄の世界に引き込まれます。

物語によって静かな悲しいもの、また烈しいお囃子に動きも速くなり、緊張感が漂い、何ともカッコイイ！と思ったものでした。

還暦前に何かをと考え、好きな地唄舞も年をとり、白塗りに鬘、美しい衣装をつけた姿はあまり戴けないとあきらめました。

そんなある日、一枚のチラシが友人を通し私の手元に。見ると「皆で能を勉強してみませんか」と言うものでした。勇気を奮って友人と出掛け出逢ったのが今の三木先生でした。笑顔のあふれるかわいい方（失礼）で、その場で入会してしまいました。

台所が桧舞台の私が、人生の終盤にプロの先生方の地謡やお囃子で桧舞台に立つなど考えてもみない事でした。

出番を待つ時は「何故こんな事始めちゃったのかなー」と緊張していると、先生が「プロじゃない老後の趣味なんだから楽しみなさい」の一言。ふっと力が抜け、無事に務めることが出来ました。

能を通して、すばらしい先生や多くの友人に出逢えた事を何よりの宝と感謝し、七百年も伝統を守った日本の芸能にふれられた事も良かったと思っております。

私と小唄

小唄長生会　長生代一郎こと
赤尾敬一郎

「引かれ者の小唄」などと申しますが、きょうびめったな事では、引かれることもございません。

「キミィ小唄の一つも出来ん様じゃ困るネ」（森繁社長）

「ハッ」（のり平宴会部長）

の世界も遠い昔となりました。

そんな中、ひょんなご縁から小粋な師匠に「糸道」（いとみち）を付けて頂き以来差し向かいのお稽古を続けております。

小唄と言えば何と言っても四畳半的男女の世界。チントンシャン。

「今宵は雨か月さえも　暈着ていづる朧夜に　ぬしと覚悟の舟のうち
すいにもやいし首尾の松」（今宵は雨）

「から傘の　骨はばらばら紙や破れても　離れまえぞえ　この千鳥がけ」
（から傘）

「止めても帰る　なだめても帰る蛙のみひょこひょこ　とんだ不首尾の裏田んぼ　振られついでの夜の雨」
（止めても帰る）

「切れてみやがれ、ただ置くものか藁の人形五寸釘」（切れてみやがれ）

また、芝居小唄といったジャンルも欠かせません。

「花の雲、鐘は上野か浅草か　所縁の色の鉢巻も　江戸紫や伊達姿　堤八町衣文坂大門くぐる助六に　させるの雨が降るわいな」（花の雲）

こんな小粋な小唄の世界ですが、お稽古は冷や汗もの。厳しい口伝？があり、オペラのような発声法はなし、かといってささやくだけでもダメ。

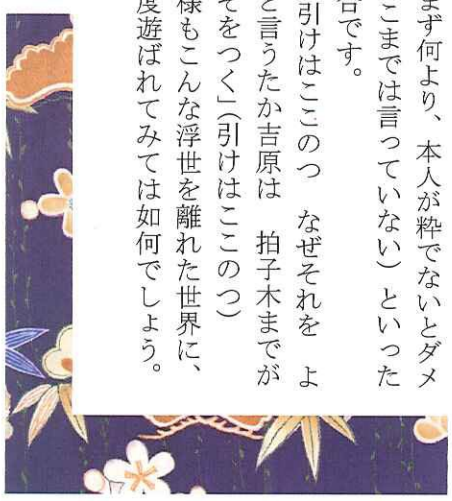
爪弾き（撥を使わない三味線奏法）の爪が糸に直接触れてはダメ。

三味線はわざと唄と間や旋律をずらしてあるので、これが重なるのは「着く」といってダメ。

まず何より、本人が粋でないとダメ（そこまでは言っていない）といった具合です。

「引けはここのつ　なぜそれを　よっと言うたか吉原は　拍子木までがうそをつく」（引けはここのつ）

皆様もこんな浮世を離れた世界に、一度遊ばれてみては如何でしょう。



羽音

佐々学展と佐々先生のこと

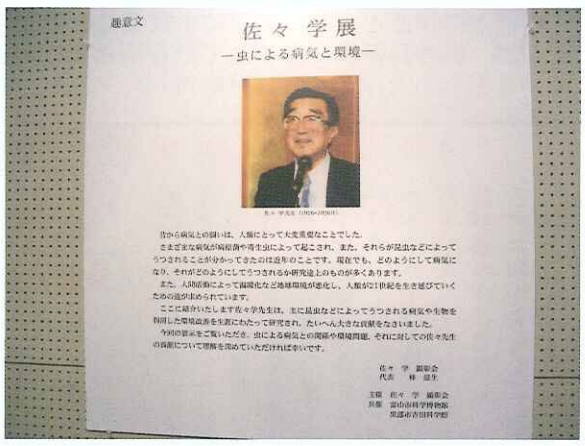
財団法人日本環境衛生センター技術顧問
田中　生男

二〇〇八年三月に富山市科学館、四月に先生の晩年のご研究の拠点であった黒部市の吉田科学館で「佐々学展〈虫による病気と環境〉」と題した展示と講演会が開催された。

衛生動物学者として優れた業績を残された先生を称え、その業績を多くの人々に知ってもらおうという意図からであった。

会場には縁の深い研究者だけではなく一般の見学者も多く訪れた。先生の三回忌にあたる今年、佐々同門会が中心になった佐々学顕彰会が開催したものである。佐々先生は日本が世界に誇る偉大な衛生動物・寄生虫学者である。東京大学伝染病研究所を出発点として、一九四六年に海軍軍医として戦地に赴き、復員後再び伝染病研究所に戻られ、同研究所所長、国立公害研究所所長、帝京大学医学部教授を経て、一九八二に富山へ移られ、富山医科薬科大学学長、富山国際大学学長など数々の要職につかれ、二〇〇六年に九十歳で逝去された。

紫綬褒章や勲二等の受賞、野口英世記念医学賞などのほか、世界の寄生虫学者のバイブルとなっている「世界のフィラリア病」（英文）や毎日出版文化賞を受賞した「日本の風土病」など、学術研究や文筆活動などで数え切れないほどの賞を受賞をされている。一九八四年には宮中講書始の儀で昭和天皇にご進講も行われた。



先生の自然科学者としてのすばらしさは語りきれない。ツツガムシ病、フィラリア病などと関連したダニや昆虫など寄生虫や疾病の媒介虫、ユスリカの研究では一千を超す種類の発表など、多くの発見や先駆的業績を残された学者である。生涯を現役の研究者として送られ、学長になられてからも、学長室を適当に仕切って研究室とするなど、大学では前代未聞といわれる改装を行い、そこに必要器材を持ち込んでご自身で採集を行い、数え切れないほどの論文を書かれている。さらにご専門の研究の傍ら環境問題にも力を注がれ、ご自宅の庭で何万本にも及ぶドングリの苗を育てられ、あちこちに苗を配って緑の森を回復する活動もしておられた。

先生の非凡なところは、お仕事一辺倒ではなく、テニス、バドミントン、野球など運動にもたけ、お酒もたしなみ、それにまつわるエッセイも多く書かれていることである。ご自身の夢を実現させるため、秘められたご才能を、たゆまぬ努力によってご自身で引き出すことができた偉大な先生であった。

BOOK

「これだけは知っておきたい日本の家ねずみ問題」

矢部　辰男著
地人書館
定価一八〇〇円（税別）

著者は、神奈川県衛生研究所で長年にわたってねずみの生態を研究。退官後にラットコントロール・コンサルタントを設立。精力的にＰＣＯへのコンサルタント業務や執筆活動を続けてきた。

これまでに「昔のねずみと今のねずみ」「ネズミに襲われる都市」など著書多数。

現在、ねずみ駆除協議会副会長、社団法人海外農業開発協会「熱帯野鼠対策委員会」副委員長。

城ヶ島、愛媛県宇和島、樺太のねずみ大発生とその収束の研究や都市化にともなうねずみの優占種の変化、奄美大島のクマネズミ大発生の研究実績、小笠原諸島のクマネズミ根絶作戦などから、家ねずみ根絶対策の提案をおこなっている。

ねずみが住みにくい環境づくり、ねずみのいない空間づくりの重要性、そのための顧客の協力の必要性を強調。家ねずみを駆除するには「機器や薬剤、天敵などを使う科学技術的な手法だけでなく、社会科学的な手法も取り入れる必要がある」と説いている。

むしくいず

●問題●　ヒントの中から漢用数字を１字選んで四字熟語を完成させてください。色網の升に入る漢用数字を足し算すると幾つになりますか。それが答えです。

□石□鳥　□法全書
□人□脚　□人囃子
□寒□温　■面楚歌
□書□経　□日坊主
□臓■腑　□者択一
□人□色　□人芝居

ヒント
一
二
二
三
四
四
五
六
十
一
二
三
三
四
五
五
六
十

◆応募規定　ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。
〒105-0014　東京都港区芝2の23の4
アペックス産業㈱内　APEX　CLUB宛
ファクシミリ番号　03-3455-6558
締切りは平成20年9月1日（月）（当日消印有効）
正解者の中から抽選で若干様に記念品を差し上げます。

★前号の正解と当選者（順不同）
正解は『心』でした。
当選者：護山 信之、馬淵 恵美、平野 徹の３名様です。